



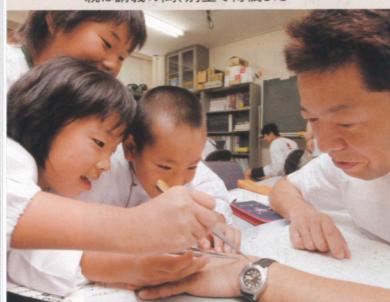
心臓の弁を取り替える手術を説明する渡邊教授。生の映像は子供たちの心をとらえた

金大附属病院で親子体験学習会

(主催:金大附属病院心肺・総合外科、NPO法人プロジェクト医心)



子供たちも白衣姿で記念撮影。「将来はお医者さんに」と期待しているかもしれない付き添いの親は講義の間、別室で待機した



手術を終えて医局に戻った富田重之助教が自分の手を使って器具の扱い方を教える

金大附属病院の医局の王二一
に映し出されたのは心臓のアップ
映像。渡邊剛教授が心臓を動かし
たまま手際よく手術する様子を子
供たちが見つめる。
女の子が質問した。
「手術の中で気持ち悪くなるこ
とはありますか」
渡邊教授が手術室からマイクを
通して答える。

「慣れているから大丈夫です。聞
きたいことがあつたら何でも言つ
ていいですよ」

総合外科で開かれた親子体験学習

会「しんぞうってどうやってなおすの?
すの?」(北國新聞社など後援の
ひとコマである。参加したのは石
川県内の小学生21人。中高校生を

解剖体験で豚の心臓を触る子供
たちの目は輝いていた。ひとつ
が、本物を生で見る体験は子供の
琴線に触れたと思ひます」(渡邊
教授)

対象にしないのは「進路や収入を
考へ出す前の純粋で感受性豊かな
時に本物の医療を見てほしい」(渡
邊教授からだ)。

医局の中継画面は小田誠臨床教
授が執刀する肺がんの手術に切り
替わった。続いて手術を終えた渡
邊教授が何事もなかつたかのよう
に医局に現れ、心臓の弁を取り替
える手術の説明を始めた。

「参加者全員が科学や医療に興味
を持つたかどうかは分かりません
が、手術の説明を始めた。



人間の心臓に近い豚の心臓を解剖する。「子供たちはこれを一番喜びますね」と渡邊教授(写真中央)。学習会は北國銀行が協賛した

しんぞうってどうやってなおすの? 手術を見つめる小学生 本物の医療を生で



心臓の模型と手術器具を使ってバイパス手術を説明する
山口聖次郎助教



豚の心臓を触る子供たち。感觸は忘却られない思い出になった



人間の手より精密な動きができる手術用ロボット「ダヴィンチ」。
子供たちはゲーム機感覚で使いこなし、医師を驚かせた